

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	道作古墳群歴史広場維持管理事業		
事業の実施者	実施団体名	特定非営利活動法人小林住みよいまちづくり会	
	所管部署	生涯学習課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	小林住みよいまちづくり会				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前)	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。	道作古墳見学会開催の際に参加者から市民の声としてアンケートを書いて頂いているが、毎回のよう「四季の花」を植えて欲しいとの要望が出てくる。そのため、年々花の植栽を行っている。すでにスイセン、カンナ、ハボタン、ビオラ、ニッコウキスゲ、ドウダンツツジ、アジサイ、など徐々ではあるが増やし要望に応えている。							
(アイデア審査後、最終審査前)	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○				○			
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○				○			
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○				○			
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	広場を訪れる人が増えて喜ばしいことであるが、一方で、あずまやに設置されている木製の椅子(大木の幹を切ったもの)の割れ目にタバコの吸い殻を詰め込む者がいて、火災予防上の問題があるため、まずは警告板を設置することで対応することになっている。							

協働事業実施中	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった	1. 行った 2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった	1. 残した 2. 残さなかった
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	気象上の要因と思われるが、草の生育が当初の想定と相当のずれが生じたため、墳墓及び広場の草刈り作業スケジュールの見直しを頻繁に実施した。	発掘調査や現地説明会等、古墳や広場を利用する事業について情報共有に努めたことにより、維持管理の成果発信と史跡の効果的な活用につなげることができた。また、日常点検業務等についても、連絡を密に取ることを努めた。
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた できた 不十分 全くできなかった	十分できた できた 不十分 全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	市民との共有の実践手段として、 ①機関誌(瓦版)に道作古墳整備事業関連記事を掲載。 ・4月と10月に各1,000部印刷し町内会、学校、各団体等に配布 ②ホームページへの掲載 ブログ形式で道作古墳群見学会等の記事を掲載し、かつアクセス数向上を図っている。 (2016年度 1,057アクセス/月、2017年度 1,250アクセス/月、2018年度 1,243アクセス/月) ③道作古墳群見学会の内容充実を図った(出土品の展示に加え、小林地域の自然、歴史、伝統行事等幅広いパネル展示) ④道作古墳群見学会の案内(チラシ)の作成・配布(町内会、学校、各団体等) 700部	・会のHPや機関誌などで積極的に情報を発信していただいた。また、見学会等において協働事業についての紹介を行った。

協働事業実施後	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	①. 適切 2. 適切でない	①. 適切 2. 適切でない
	理由を記入してください。	協働事業の具体的な業務として草刈等の実作業は会が実施するとともに、文化財普及イベント(道作古墳群見学会)を春・秋2回開催したが、①市は、古墳・遺跡出土品の展示と説明。資料作成と配布。広報印西・市HPによる広宣活動。 ②当会はHP、機関誌(瓦版)による広宣活動、アンケートによる住民の道作古墳群広場への今後の在り方に関するニーズ把握、パネル展示による小林地域の歴史意識の啓発をそれぞれ分担し相互に連携して実施した。	・会においては、維持管理事業に努めるとともに、見学会等を開催し道作古墳群の周知を行った。 ・市では、見学会における遺物の展示・開設、倒木撤去等、会では対応不可能な業務について協力した。
	Q15 資金負担は適切でしたか。	①. 適切 2. 適切でない	①. 適切 2. 適切でない
	理由を記入してください。	当会としての資金負担としては、道作古墳群見学会分が主たるものであり、会場設営におけるテント、パラソル、テーブル、椅子等の機材、珈琲・烏龍茶の無料サービス等とそれに伴う作業費であるが、概ね計画どおりの予算で達成できた。(野点イベントも実施したが、抹茶・和菓子代として実費相当 300円を負担して貰った)	・概ね計画通りに執行され、適切であったと考える。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○					○		
		実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。				主事業である「草刈」「樹木管理」等は草の生え具合、台風被害により実施日程の変更は生じたが、概ね計画どおり遂行できた。細かい点では、例えば刈草の廃棄処理量は若干計画値より増という結果になった。(計画1,600kg⇒実績1,735kg) ・雑草の生育状況や廃棄重量など、気象条件等によって数量の変動が生じたが、概ね計画どおり実施することができた。			

	設問	小林住みよいまちづくり会				印西市			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○				○			
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	貴重な近辺の歴史を理会認識して貰うため、見学会での「展示パネル」を道作古墳に限定せず地域の歴史も紹介した。 市民の声の反映①見学会でのアンケートに要望の出ていた、季節の花の植栽(スイセン、アジサイ、カンナ等)については着実に進捗を図っている。②見学会への参加者増を図るため、HP、機関誌の充実など広報活動に注力した。結果としては参加者は春100名、秋110名程度の参加者となった。				・主目的である歴史広場の維持管理について、達成されていると考える。			
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○					○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	◆草の生育、台風の襲来に合わせて日程調整、工程の調整を行ったが費用については概ね適正だったと考えている。 ◆とは言え、①車両使用を10回で計画したが、刈草処理の関係で12回となったこと ②刈草の焼却が1,600kgで計画したが実績としては1735kgとなり若干の費用増となった。(提案者負担)							
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○				○			
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	◆文化財普及イベント(道作古墳群見学会)で来場者が最も期待することは、土器等出土品の展示と説明でありこの点は当会では不可能である。アンケート結果を見ても来場者の声として、①古墳等の説明が分かり易く良かった ②土器等を実際に見れて良かった という評価。				・単独で事業を実施した場合と比較し、予算的にも大きな負担軽減となるだけでなく、市民団体の自主的な活動により、地域の文化財としてのランドマーク的な役割も果たすことができ、活用の面に関しても効果があったと考えられる。				

	設問	小林住みよいまちづくり会	印西市
		1. 思う 2. 思わない	1. 思う 2. 思わない
協働事業実施後	事業の実施により、事業計画で示しQ20た地域課題の改善につながったと思いますか。	◆印西市全域、地元の人達が、「こんな近くに27,000年前から人が居た、そして1,500年前の古墳がここにあるということ」を全く知らなかった」という認識はアンケートや日頃訪れる人から良く聞いている。少しでも近隣の歴史に興味を持って頂いてることは実感できている。やはり実際の古墳を前にして語られ、聞くことはより身近な存在として感じ取って貰えるようである。 ◆散策して「あずまや」で休憩している地元(馬場エリア)の人や、近所の方からは昨年に引続きスイセンの球根やカナの苗を寄付して頂いたり、その意味では地元に着実に密着してきていることも感じている。	
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。		
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。		◆道作古墳は、近くの鳥見神社、巴塚を含めた歴史散策、地元の散歩休憩場所として訪れる人が非常に多くなってきており、道作古墳は「非常に明るく見違えるよう綺麗になって良かった」という評価を受けている。これはアンケートからも明らかで、今後も単に整備だけでなく、見学会を通し付加価値を付け向上させていきたい。 ◆今後の課題・展望 ①周辺の自然のコース紹介 ②写真撮影の被写体としての適した景観づくり(現在は電柱、ケーブルなど人口的施設が目立つ) ③民有地の2号、3号、6号古墳を含めた近接する古墳との融合化 ④小・中学校生徒の学習の場(古墳を軸とした人・遺跡等による歴史) ⑤より古墳公園らしくするための花植えなど(見学会アンケートの反映)	・自由提案の3年を終え、会と市を中心とした維持管理体制を築くことができた。今後も広場の維持管理を継続的に実施する必要があることから、平成31年度においても引き続き維持管理を委託している。

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、道作古墳群歴史広場を市が整備したことをきっかけに、小林地区の活性化をミッションに活動するNPO法人小林住みよいまちづくり会が維持管理及び活用を図る協働事業として採択されました。平成30年度は、平成27年度から連続して4年目の事業実施となりました。

維持管理事業は、これまでの経験を生かし、年間を通しておおむね順調に行われました。継続して実施する中で、古墳群の存在は徐々にではありますが地域に根付きつつあるものと思われま

す。
平成30年度が企画提案型協働事業(市民提案型)としての最終年となり、市と団体が今後について協議し、広場の維持管理を継続的に実施する必要があることから、平成31年度においても引き続き維持管理を委託している。

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	地域住民への身体活動増進プログラムの提供		
事業の実施者	実施団体名	ALipro(アリプロ)	
	所管部署	健康増進課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	アリプロ				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。		○				○		
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。								
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。		○				○		
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。		○				○		
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。		○				○		
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。		○				○		
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。		○				○		

	設問	アリプロ				印西市			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。								
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・年度終了時点(平成31年3月)に本活動(身体活動増進プログラム)参加者を対象とした総会(修了式)を開催した。1年間の参加者の身体活動の改善状況や体力・体組成(脂肪量・筋肉量)への効果について情報を共有した。				・事業に参加している市民に対しては修了式時に効果判定の途中集計結果を報告した。しかし、事業成果を広く市民と共有するには、協働事業を担当する市民活動推進課で統括した成果報告を行うことが望ましいと思われる。			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	・各種イベントの運用は本市市民団体に一任されたことで市民の公益に資する柔軟かつ迅速な対応が可能となった。一方、担当課による計らいで施設を優先的に予約・利用できたことは大きな助けとなった。また、市民への周知については団体と担当課が役割分担を協議し認識することによって、広く効果的な広報を実現することができた。				・事業の実施を団体がを行い、会場借用、広報しやホームページでの周知を市が行った。また、事業の企画・運営の方向性が適正となるよう、当課がアドバイスをを行うなどの役割、責任分担を行った。			

Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
理由を記入してください。	・本事業規模とイベント頻度を実現するために必要最低限の資金援助と負担であったと考えられる。本年度は、イベントを多く開催したため資金負担は多くなったが、この経験が来年度の活動と市民のニーズを取捨選択するための価値ある遺産となった。加えて、イベントを通じて新規参加者の獲得につながった。また、今回の資金援助によって運営に関連する物品等の初期投資は概ね完了することができた。	・事業運営に必要な資金負担であったと考える。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

設問		アリプロ				印西市			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16	事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○				○		
	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・各種イベントと活動内容は、計画通りに実施され参加者の満足度も高かった。				・概ね計画通りの実施であったが、参加者が少ないため、実施予定を中止、変更する等の状況がみられた。			
Q17	当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。			○				○	
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・新規参加者は36名で目標人数60名に達することはできなかった。それ以外の以下3点について目標を達成することができた。1)運動習慣のない住民の参加率が前年度よりも向上し、それらの参加者の大半に身体活動の促進効果が得られたという重要な目標を達成することができた。2)健康度や体力が改善する傾向が認められた。4)参加者の中にコミュニティが生まれ新しい運営組織の構築が実現した。				・事業の実施は概ねできたが、提案内容にある事業目的の取り組みについては課題が残った。団体が自らの活動(事業実施)についてPDCAを用いて取り組む体制が脆弱であったと考える。			

協働事業実施後

Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
	○					○		
適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。								
協働で事業を実施したことは、単独 Q19 で事業を実施するよりも効果があった と思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
	○					○		
効果があった点や課題を具体的に記入 してください。	・本事業は担当課の協力がなければ実現が不可能であった。特に、市の複数施設を通年で確実に予約できたことは活動の基盤となった。また、担当課の健康イベント開催や告知に関わる豊富な経験と助言がなければ十分な参加者の確保は望めなかった。				・東京電機大学、順天堂大学の2大学が関わったことは事業実施上のメリットであると思われる。			
事業の実施により、事業計画で示し Q20 た地域課題の改善につながったと思 いますか。	1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない			
改善が図られた点や課題が残った点を 具体的に記入して下さい。	・地域課題の改善としては母集団が少ないために効果は限定的だが、少なくとも参加者の運動の意欲や継続意識に前向きな効果があったこと、身体活動の促進が認められたことは大きな成果と言える。運動習慣の確立には、年齢・性別・体力・健康度やライフスタイルに応じた多様なアプローチが必要である。その意味では、多様なニーズに対応する1つの選択肢として本活動が有用であることを示すことができた。本活動が広まることによって、慢性疾患予防ならびに地域医療費削減といった地域課題の実質的な改善に繋がるのが期待される				地域課題を把握し、改善に向けた取り組みは見られていない。			

設問	アリプロ	印西市
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	・民間企業と自治体が連携した歩数計(ポイント制度)を取り入れた運動促進事業が広まりつつある。しかしながら、高額な基盤投資とランニングコストに見合う費用対効果は未確認である。本活動は、既存の地域施設や歩数計システムを応用し、住民が運営主体となって運動促進事業を実現できることを示した。しかしながら、市の健康増進といった地域課題の解決を実現するためには、本活動を継続的に推進し大規模な展開が必要である。そのためには、本団体がより多くの市民の理解と協力を得るとともに、今後も自治体と専門機関が可能な限り支援する必要が求められる。	・当課との協働事業は今年度で終了となり、今後は市民活動グループとしての運営となる。協働事業の実施については事業提案内容での審査を行うと共に、市とパートナーとなり受託者として優れた特性、能力を有し、事業実施可能な団体であることが重要であるため、団体の選定について適正な判断基準を設定できると、効率的・効果的な事業運営ができると考えられます。

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、運動習慣のない市民に身体活動の増進を図ることを目的に、歩数計とIT機器を利用したプログラムを地域住民に提供する協働事業として採択され、平成29年度にはじめて実施されました。

本事業は、東京電機大学の研究室が中心となり、順天堂大学等の協力を得て実施されており、大学との協働を大きな特色としています。新しく開発された研究プログラムを地域で実践する先駆的な健康増進事業として、今後の発展が期待されていました。

しかし、事業を進めていく中で、団体の事業運営と、担当課の協力体制等について、双方の考えに齟齬が生じることとなり、協働事業としての活動継続が困難な状況となってしまった。

今後は、利用者が継続して自主的に活動していくことが見込まれており、協働というひとつの形としては成果があったと考えている。

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
事業の実施者	実施団体名 特定非営利活動法人エコネットちば
	所管部署 都市整備課

2. 事業のプロセス評価

	設問	エコネットちば				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。		○				○		
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。								
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始後、最終審査前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。		○				○		
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。		○				○		
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。		○				○		
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。		○				○		
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。		○				○		
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。								

設問		エコネットちば				印西市			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	・維持管理区域内は事業実施日以外にも随時巡回を実施、環境美化と安全確保に努めた。放水口に溜まる浮遊物も適時除去、調整池の機能維持とアオコの発生防止に努めた。9月末に襲来が予報された台風24号には、事前に放水口の浮遊物を除去、増水に備えた。台風通過後は直ちに巡回して、安全確認と倒木等の事後処理を実施した。コスモスふれあいまつりに合わせ順調に生育していたコスモスが強風と塩害でダメージを受け、まつり当日に満開のコスモスを楽しんでももらえず残念だった。種蒔きを早めた菜の花は順調に生育、3月には開花してみなさん楽しんでいただけた。この1年もひょうたん島池広場に訪れる人々に快適な環境を提供できたと思う。							
協働事業実施	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・秋には恒例の「第9回コスモスふれあいまつり」を開催、残念ながら9月末の台風24号の強風と塩害でコスモスを楽しんでももらえませんでした。訪れた皆さんに「一生懸命面倒みてたのに、台風のあの強風ではね、来年も楽しみにしますよ。」温かい言葉いただき、やりがいを感じています。これからも地元の皆さんはもとより周辺地域の人々にも、愛されるひょうたん島池広場であるように気配りしていきたいと思っています。				・協働事業者による発信。			

後	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
	理由を記入してください。	・提案書の計画事業を的確実施するとともに、自然気象による樹木の倒壊等、異常事態にも担当課と連絡をとり、迅速的確に処理した。	・協働事業者による草刈、花畑・樹木管理、清掃の維持管理。市として、相談・協議。
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
	理由を記入してください。		・市民サービスの向上及び協働による地域の環境保全により維持管理費の削減。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

協働事業実施後	設問	エコネットちば				印西市			
	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○				○		
	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・環境整備、植栽管理等を計画通り実施。							
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○				○		
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・環境整備、植栽管理等を計画通り実施。							
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○				○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。								
Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった	
		○				○			
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	・受託者は小回りが利き、計画した環境整備、植栽管理等は予定通りに、異常事態には臨機応変の対応ができる。				・協働事業で維持管理を実施することにより、市民の地域拠点が生まれ、維持管理経費の削減ができた。				
事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない				
改善が図られた点や課題が残った点を	・従来に増して、ウォーキング、ジョギングの利用者が増え、健康増進の場としての利用が高まった。また、高齢者施設の散歩								

	具体的に記入して下さい。	コースとしての利用も頻繁で、癒しの場として利用が拡大している。	
	設問	エコネットちば	印西市
	今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	・企画提案協働事業により「竹袋調整池(ひょうたん島池)と周辺地域の維持管理事業」も10年目を終えた。定期的な草刈りと花畑への植栽で、環境保全と景観美化を保ち、訪れる人々に癒しと健康増進の場として利用していただいている。また、イベントも恒常的に開催して地域行事としても定着、地域の皆さんも開催を待ち望まれるまでになった。今後は、より愛されるひょうたん島池広場になるよう、訪れる人々の声やニーズも参考に、更に工夫して維持管理して行きたい。	・協働事業の貢献により、季節ごとのイベントが定期的に行われ、定着しているので地域住民はもとより多くの方々のコミュニケーションの場として成長している。 ・今後の懸念材料としては、協働事業活動事業者会員の高齢化がありますので、後継者の育成にも積極的に取り組む必要がある。

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、地域の憩いの場をつくることを目的に、市有地の調整池周辺エリアを維持管理する協働事業として採択されました。平成30年度は、平成21年度から連続して10年目の事業実施となりました。

本事業では、年間を通して、調整池及び周辺の花畑が管理され、季節ごとにさまざまな草花が楽しめるよう整備されました。また、提案内容以外にも、地元町内会等と連携してまつりを開催するなど、地域コミュニティの場としても活用されました。提案者の管理は細部にわたっており、花畑の整備や清掃等に加え、桜の剪定や調整池内の水生植物の除去など、多くの作業を実施しました。現在では憩いの場として定着し、地域のニーズは高いと思われます。

提案者は今後も維持管理を継続し、イベントの実施についても積極的に行っていく意向で、担当課としても提案者に管理を継続してほしいと考えております。

しかしながら、平成30年度は企画提案型協働事業(市民提案型)としての最終年となり、平成31年度は指定テーマ型で募集するも同提案者と事業を実施することとなりました。提案者の高齢化に対する後継者の育成や市との役割分担の明確化など、来年度以降もより良い発展的な継続方法について、結論を出すことが必要となります。

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	印西市木下地区歴史講座事業		
事業の実施者	実施団体名	木下まち育て塾	
	所管部署	生涯学習課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	木下まち育て塾				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。		○			○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。	講師を依頼する関係8市区(印西、白井、鎌ヶ谷、船橋、市川の5市、江戸川区、江東区、中央区の3区)学芸員等の確保 * 講義の市民還元策としてのケーブルテレビ放映案に伴うケーブルテレビ会社との確認							
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○					○		
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○					○		
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○					○		
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	講師を依頼する関係8市区学芸員との調整に伴う市による支援 * 講義の市民還元策としてのケーブルテレビ放映案に伴うケーブルテレビ会社との調整に伴う市による支援 * 夏期特別市民講座、市による事前確保							

	設問	木下まち育て塾				印西市			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	市との「協働事業」という信頼性、担当部門の職員の方の支援により、関係8市区、夏期特別市民講座の講師を円滑に確保できた。 * ケーブルテレビによる全講義の収録、放映についても市との「協働事業」という信頼性により、更には地域活動支援を標榜する当該会社の理解により実施できた。 * 行徳航路乗船体験、大和田宿、鎌ヶ谷、小名木川、新川等の現地巡見に際しては最低2回の下見を行い、安全誘導等に留意した							
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	当塾の広報誌、『まち育てだより』により行う。また、ラーバネットと協働し、講義を収録し、視聴できない市民に向け放映した。				・ケーブルテレビでの放映や、講義映像を図書館に寄贈し、閲覧できるようにした。			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	①各講義、各講座には生涯学習課が必ず参加し、講師と木下まち育て塾との交流の円滑化をはかった。 ②行徳巡見では、市川市の本行徳公民館と講座会場、駐車場としたが積極的に交渉し、事業実施を円滑化ならしめた。				・まち育て塾が主体的な運営を行い、市は公共施設の手配や広報、HPでの周知など可能な限りの支援を行った。			

Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
理由を記入してください。	主に市外の博物館学芸員等の交通費、一部の方の講師料、木下街道巡見に伴う交通費、人件費そして吉岡まちかど博物館パンフ、開催告知ポスター作製費用等が主な経費であったが、予算に合わせて運営できた。	・概ね適切であった。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

協働事業実施後	設問	木下まち育て塾				印西市			
	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○					○		
	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	計画通りに実施できた。				・概ね計画通りに実行できた。博物館見学については、実際の見学場所や回数が年度当初に明確に定まっていなかったため、計画の段階である程度は定めておいた方が良かったと感じた。			
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○				○			
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	郷土の歴史に親しんでもらえるよう企画したが、回を重ねるごとに市民の関心が高まってきたと実感するアンケートの内容であった。 * 夏期市民特別講座は大変好評であった。これはこれまでの寺子屋修了生も多く含まれ、関心の継続は木下地区歴史講座の成果ともいえる。				・木下地区を中心とした印西市の歴史について、参加者の理解が深まったと思われる。			
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○				○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	計画通りの支出であった。				・概ね適切であった。			

協働で事業を実施したことは、単独 Q19で事業を実施するよりも効果があ ったと思いますか。		十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○				○			
効果があった点や課題を具体的に記入 してください。		講座企画をする上で市と の協働事業により多様な 案を作ることができた。 * 市民への呼びかけに対 し市民の参加がよりし易 い効果があった。 * 市の持つ様々な施設・ 機能・市バスを利用するこ とができ、事業推進を円 滑化ならしめた。				・市の財産ではない吉岡 まちかど博物館を中心と して、地域の歴史に焦点 を当てながら、木下地区 そのものの活性化を行っ ていく事業は、市単独で は実施できないため、非 常に効果的であると考え る。			
事業の実施により、事業計画で示し Q20た地域課題の改善につながったと思 いますか。		1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない			
改善が図られた点や課題が残った点を 具体的に記入して下さい。		特にこの2年間は木下街 道沿道5市、行徳航路沿 川3区の学芸員の方々を 吉岡まちかど博物館へ招 致してのこれまでにない 形態をとった。講義の内 容も多様性がある。今後 はこれら修了生を更に一 段のたかみにのぼり、例 えば『印西の歴史』に寄 稿する等をも期待すること もできよう。				・吉岡まちかど博物館を 主な拠点とした事業のた め、受講者数が限られた 人数となってしまったが、 ケーブルテレビでの放映 や、講義映像の寄贈等の 工夫を行い、対象を広げ る解決を図った。			
設問		木下まち育て塾				印西市			
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。		住んでいるまちの歴史を 学ぶことにより親しみと誇 りを感じ、住みよさを改め て実感できるふるさと意識 の醸成の一助になれば という思いで、学ぶ場の提 供の意義を確認すること が出来ました。 また、利根川や手賀沼、 印旛沼という水辺の町とし ての自然豊かな印西市が 市民が誇れる町として より住みよいまちづくりの ために、さらに継続的に事 業を推進し、町の活性化 にも役立てればと改めて 意を強くした次第です。				・木下河岸を中心とした地 域の歴史講座は、地域の 活性化や地域が誇る歴史 的文化的文化財の活用につな がるため重要だと考える。自 由提案の3年を終えた が、平成31年度について も木下地区歴史的文化的文化財 保存活用事業として引き 続き委託している。			

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、まちづくりファンドで修復した蔵をまちかど博物館として活用している提案者が、市民のふろさと意識醸成を目的に木下地区の歴史講座を実施する協働事業として採択されました。平成30年度は、平成24年度から連続して7年目の事業実施となりました。

前年度と同じ講座を行うことで、より円熟した内容となりました。また、平成29年度から始めたケーブルテレビでの放映は、平成30年度も継続され、さらに、講座の様子を録画した映像を図書館に寄贈し、一般市民が広く閲覧できるようにしました。

講座の企画運営は提案者が主体となって実施していますが、事業には必ず市職員が参加・協力しました。情報発信等については提案者と市が連携して行っております。屋外の活動については改善の必要性が指摘されていますが、全般的には明確な役割分担に基づいて事業が展開されました。

木下河岸を中心とした地域の歴史講座が、地域の活性化や地域が誇る歴史的文化財の活用につながることから、平成31年度は生涯学習課の木下地区歴史的文化財保存活用事業として、木下まち育て塾に事業委託されることとなりました。

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業		
事業の実施者	実施団体名	印西防災研究会	
	所管部署	防災課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	印西防災研究会				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。								
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○				○			
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○				○			
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○				○			
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	○				○			

	設問	印西防災研究会				印西市			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。								
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・印西市の全防災自主組織91に対し、①6種類の自主防災組織コンパクト版マニュアル策定と配付②「自主防災組織診断チェックシート」アンケート調査実施(回収率70.3%)と結果配付③「自主防災組織運営について」学習会実施(20組織参加)				・年度当初にアンケートを実施したが、その結果を市内自主防災組織代表者に送付し情報の共有を図った。			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	・会員(9名)の役割や責任分担を明確化し、防災課の協力をえた。				・文書の作成は事業者で行い、送付先の情報が必要な作業については市で実施する等、役割を分担した。また、事業の進捗状況の管理についても、会議の開催やメールのやり取りで適切に実施した。			
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	・予算科目の設定は適切であったが、各科目について節約に努めたため、予算を十分に消化できなかった。				・当初の見積もりがやや過大であったが、概ね適切な資金負担であった。			

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

	設問	印西防災研究会				印西市			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○				○		
	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・自主防災組織の現地訪問は、学習会に変更した。				・概ね計画通り実施できたが、自主防災組織の現地訪問については、希望団体を集めての学習会に変更した。			
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○				○		
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。					・自主防災組織の分析や、知識の啓発は達成することができた。			
	Q18 経費の支出は適切でしたか。			○			○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。	①謝礼を有識者が受け取らなかった。②公共施設使用料の減免							
	協働で事業を実施したことは、単独Q19で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○				○		
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。	①効果：市防災課からのアドバイスと後ろ盾の有効性②課題：市の防災計画との整合性				・市では実施できていなかった自主防災組織の細かい現状調査について、把握することができ、今後の自主防災組織育成事業に生かすことができた。			
	事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない			
改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	①自主防災組織運営マニュアルの啓発・普及により、自主防災組織構成員のレベルアップにつながり、自主防災組織の活性化に役立った。②さらなる事業の活性化のため、全91ある自主防災組織をまとめる「連合会」等の設立が必要と考える。				・既存の自主防災組織に対しては、運営知識の啓発が実施できたように思う。ただし、自主防災組織未設置の町内会等への働きかけについては31年度以降の課題であると思う。				

設問	印西防災研究会	印西市
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	・防災実地訓練を含む各学習会の実施拡大、新しいマニュアルの作成(在宅避難、災害危険箇所マップ)、既存マニュアルの深堀、自主防災組織未設置地区への対策	・平成31年度については、自主防災組織未設置の町内会・自治会などに対してアンケート調査による未設置の理由などの調査を実施したうえで、自主防災組織の結成に向けて働きかける。 また、新規防災マニュアルの作成・既存防災マニュアルの見直し作業を実施する。

調整課(市民活動推進課)付帯意見

現在、地震や洪水などの災害対策は、「自助」・「共助」・「公助」の一体化が基本であり、その中でも「共助」、またその中核である自主防災組織が重要視されている。本提案は、市内に91ある自主防災組織の活性化のため、組織構成員に対し組織運営の知識習得を中心に各種事業を展開するものである。

事業内容としては、6種類の自主防災組織コンパクト版マニュアルの策定と配付、自主防災組織運営について学習会や講習会を公民館の講座としても実施、いろいろな地区の防災訓練にも参加しています。

平成31年度は企画提案型協働事業(市民提案型)として2年目の実施年となりますが、防災課からも良い評価を得られており、いくつかの課題を適切に改善することにより、企画事業として大きな飛躍が期待されます。

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業		
事業の実施者	実施団体名	NPO法人 里地里山保全ねっと	
	所管部署	農政課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	里地里山保全ねっと				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前)	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。	・民有地を一部含むことから整備作業の進め方を市と相談、確認しながら実施した。また、周辺でのイノシシの出没状況も確認しながら作業を行った。				・イノシシの出没状況及害虫等に対し留意を怠らない旨を指導した。・作業予定地が、県と市有地及び民有地を含むことから、事前協議や作業の進め方について打ち合わせを行った。			
(アイデア審査後、最終審査前)	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○				○			
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○				○			
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○				○			
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。	・作業の安全確保について、マムシやスズメバチ対策を十分するようとのアドバイスをいただき、対策を立てたうえで作業を実施した。				・作業の安全対策及び地権者などへの説明手法が不足しているため、指導を行った。			

	設問	里地里山保全ねっと				印西市			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。	・谷津の不耕作地や農道周辺にペットボトルや空き缶等のゴミがたくさん捨てられていた。ゴミが捨てられないよう、竹林整備では道路に面した部分の竹をあえて残して整備した。				・本事業計画外である不法投棄物の対応について、クリーン推進課等との調整が必要である。			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・自治会の回覧等を通じて協働事業でイノシシ対策としての里山整備を行っていることを周知しました。また、一般参加の里山整備体験会を開催し、近隣の方々に、整備した谷津の散策と普段私たちが行っている竹林整備を体験していただきました。なお、ブログを立ち上げ活動を毎回掲載しました。				・自治会回覧やブログでの周知を行った。また、整備体験会等を通じて周知に努めたが対象が限定的であるため、より広く周知ができる方法を検討していく必要がある。			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	・整備範囲の確認や地権者の紹介と調整を行っていただいたので、作業に集中することができた。天候等で作業が遅れ気味であったが何とか当初の予定をこなすことができた。				・整備範囲の確認や地権者の紹介と調整を行い、より効率的な作業を行うことができたが、天候等で作業が遅れ気味であったが何とか当初の予定をこなすことができた。			

Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
理由を記入してください。	・適切な資金負担をいた だいたことにより、消耗品 や備品関係の補充・調達 がスムーズにできた。ま た、今後の活動の基盤強 化にもつながった。	・概ね予算に沿って適切 に資金利用を行ったもの と考える。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

設問		里地里山保全ねっと				印西市			
Q16	事業は当初の計画どおり実施できた と思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○				○			
	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・谷津の不耕作地の草刈りによる整備と竹林の伐採整備は、当初予定していた範囲を完了することができた。谷津の不耕作地については、2回～3回の草刈りを行うとともに一部斜面側の草刈りも実施できた。また、竹林については、密集しすぎて貧弱な竹が多くほぼ皆伐することとしたため作業量が増えたが、その分見栄えのいい整備ができた。				・谷津の不耕作地の草刈りによる整備と竹林の伐採整備は、当初予定していた範囲を完了することができた。谷津の不耕作地については、2回～3回の草刈りを行うとともに一部斜面側の草刈りも実施できた。また、竹林については、密集しすぎて貧弱な竹が多くほぼ皆伐することとしたため作業量が増えたが、その分見栄えのいい整備ができた。			
Q17	当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○					○		
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	・里山の整備は予定通り進めることができました。イノシシの出没跡も減少しましたが居なくなったわけではなく、隠れ場所が無くなったため昼間などは出てこなくなったものと思われます。しかし、整備した里山においてはイノシシが生活しやすい環境になったことは確かであるため、この活動を続け、整備範囲の拡大と維持に努めたいと思っています。				・整備は概ね計画通り完了し、イノシシの出没跡の減少傾向である。有害獣対策は防除、捕獲、環境整備がかみ合って効果が高まるものであることの実証が、一定のレベルで達成されたと考える。ただし、効果測定が主観によるもののため詳細なデータの収集と分析があれば、より精度が高まると考える。			

協働事業実施後

Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた ○	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた ○	一部できなかった	全くできなかった
適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。					・構成員個人宛の領収書（インターネット購入のため）が数点あった。購入品自体は適当であるが、購入方法など検討が必要と考える。			
協働で事業を実施したことは、単独Q19で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった ○	あった	一部課題があった	効果がなかった	十分あった ○	あった	一部課題があった	効果がなかった
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	・協働事業でなければできない事であったと思います。一般的にイノシシ等の獣害は農作物の被害を対象として捉えられています。実際は車との衝突や住宅地付近への出没による住民の行動（散歩等）抑制など、人的被害に至らないまでも獣害は発生しています。市民目線の提案を協働という枠で捉えていただき、農業と市民生活にまたがる活動ができました。里山を整備しイノシシが住みづらい環境を作るとは、印西市の優れた景観を取り戻し、イノシシの出没も減少させる効果がありました。				・個人所有地を含むことから、行政主導では実施困難な事業内容であるが、一定の効果が見込めることから、テストケースや好事例として今後の展開に検討したい。			
事業の実施により、事業計画で示したQ20の地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない			
改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	・課題の改善につながったと思います。整備した谷津の不耕作地は草刈りをして元農地だった様子がわかるようになり、隣接する農道は篠竹の伐採や枝払いにより見通しが利くようになりました。また、竹林は皆伐したことにより明るく広場のようになりました。里山整備もイノシシ対策も継続しないと意味の無いものになるので、今後も管理を継続して行なう必要があります。				・整備によりイノシシの出没減少や従来の景観を取り戻すなど物理的な効果のほかに、地域住民が主体となった環境整備に対する意識の芽生えなど副次的な効果がみられる。			

設問	里地里山保全ねっと	印西市
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	・2019年度は整備範囲を隣接地へ拡大し継続実施して行きます。今年度実施した部分については草刈り等の維持活動を行い、更にイノシシの隠れ場を無くすため住宅地側の斜面の草刈りも実施予定です。また、新規に整備する不耕作地については、ハンマーモア等を導入し効率化を図ることにより管理可能面積の拡大を図ります。 なお、今回整備した谷津の湿地部分でアカガエルの卵塊を多量に確認できたので、ビオトープ化も検討したいと思っています。	・行政が着手しにくい事業への着眼は素晴らしく、結果的に一部地権者を巻き込むなど事業としては成果があるといえる。しかし事業地のような場所は、市内に多数散見され現実的には手のつけようのない箇所も非常に多い。地権者自身も心を痛めているが、環境の変化や高齢化、後継者不足などから不整備森林や耕作放棄地の拡大につながり悪循環に陥っているため、2年目の事業の推移等を考慮し継続性のある事業への展開を協議したい。

調整課(市民活動推進課)付帯意見

獣害対策として、「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に行うことが効果的と言われています。本事業は、市が行っている「捕獲駆除」「防護柵」に加え、提案者が「生息環境の管理」を行うことで獣害対策を補完し、さらには市民が里山地域に親しみ、印西市の自然環境を満喫できるような農村環境づくりを目的としています。

イノシシの餌となるタケノコが大量に生息する放置竹林の整備、耕作放棄地や隣接する里山の整備、時には多量に発見された不法投棄の処分や地権者との交渉や調整など様々な努力により、主観的な評価ではあるかもしれませんが、イノシシの出没跡が減少しているという結果が得られました。

平成31年度は企画提案型協働事業(市民提案型)として2年目の実施年となりますが、農政課からも良い評価を得られており、いくつかの課題を適切に改善することにより、企画事業として大きな飛躍が期待されます。

印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	武西の里山 保全と調査事業
事業の実施者	実施団体名 NPO法人 谷田武西の原っぱと森の会
	所管部署 環境保全課

2. 事業のプロセス評価

	設問	谷田武西の原っぱと森の会				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	○					○		
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。					・申請者に何をどこまで実施してもらうか。 市として、協働事業をする意義とメリットを明確にしなければならない。			
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○				○			
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○				○			
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○				○			
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。		○			○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。								

協働事業実施中	設問	谷田武西の原っぱと森の会				印西市			
	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○				○		
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	○				○				
Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった				
不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。									
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○						○
成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	・保全作業や調査を実施した後、ホームページに活動内容を掲載した。 また、11月に開催された印西市のだんごまつりなど催しに原っぱの会も参加し、パネル展示などで成果を報告、PRした。				・まだ里山の自然や動植物を保全していくための途中であり、今後も引き続き調査していくことで情報発信できるような結果につながると考える。				
協働事業実施後	設問	谷田武西の原っぱと森の会				印西市			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
理由を記入してください。	・保全作業においては、まず草刈りを受け持つ区域を適切に決めた。具体的には、東京電機大学西の道路わきの急傾斜地を市が業者に委託し、比較的なだらかで広い緑作の草原を原っぱの会の担当とした。 また、緑作の草刈りにあたっては、環境保全課が乗用草刈機バロネス1台と自走式草刈機1台を燃料も含めて運搬、提供していただき、原っぱの会が会所有の草刈機などとともに使用して効率的に保全作業を行った。				・申請者には保全と調査をしていただき、市は保全のための機器の貸し出し等を行った。また調査結果は今後の里山保全の活用を生かしていく。				

Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない	1. 適切 2. 適切でない
理由を記入してください。	原っぱの会の2018年度の収入は主に、会費など、千葉県環境財団からの助成金、印西市からの受託金によっており、決算の結果、ほぼ予算通りの支出で活動を行えたので、負担は適切であったと考える。 特に、乗用草刈機バロネスなどを燃料も含めて提供していただいたので、原っぱの会として保全作業にかかる資金負担は2017年度と比べ軽減できたものと言える。	調査のための人件費や植物調査等の講師を市が負担した。また市の保有する機器を貸し出すことで経費の節減になった。

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○			○			
協働事業実施後	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	当初計画通り、緑作の草原の草刈りは実施できた。特に、クズの根切り除去作業を行い、季節として春と冬に保全作業ができたため、本来の草原の姿を保つことができた。また、水辺の保全についてはキショウブの繁茂が強く、完全に除去するためには来期以降の作業も必要である。調査に関して、植物、昆虫については、ほぼ計画通りに毎月1回以上実行し、それぞれ数回講師を招いて調査技術を向上させた。				草地の草刈り等保全作業や植物等の調査を行った。			
	設問	谷田武西の原っぱと森の会				印西市			
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。		○			○			
		保全作業のうち、緑作の草刈りは効率的にでき、事業目的を達成できたと思う。クリーン印西として行った湿地周辺のガラス片などゴミ除去はかなり進んだものの、埋もれたゴミが予想以上に多く、今後も継続していかななくてはならない。				生物多様性のある自然環境の維持・再生を目的としているが、初年度の成果としては目的を達成できたと考えている。			

協働事業実施後		らない。 調査活動については、多くの希少種を確認できたことなどで、武西が貴重な自然を有する里山であることを裏付けられたと考える。							
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○					○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。								
	協働で事業を実施したことは、単独Q19で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			○				
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。	上記記載の通り、乗用草刈機バロネスなどを使用できたことで、保全作業は格段に効率よく行うことができた。また、印西市との協働ということで、保全作業、調査活動ともに円滑に進めることができた。課題としては、提供いただいた乗用草刈機バロネスなどが比較的旧式のため不調なことが挙げられる。また、提供日が月曜に限定されているため、原っぱの会の計画が制約される一面もあった。				環境調査では、繋がりのある関係者や協力者に協力していただくことで、専門的な調査をすることができた。			
協働事業	設問	谷田武西の原っぱと森の会				印西市			
	事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない				1. 思う 2. 思わない			
		武西の里山、特に緑作の草原は、南側を中心にクズの根が数年にわたって広がり続け、北側では背の高いススキやササに覆われる状況だったが、2018年度の保全作業で相当改善し、草原性の植物				自然環境の維持が図られた。			

実施後	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	が案外すぎる自然環境が回復できた。	
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	保全作業については、2018年度と同様に緑作での草刈りを中心に継続し、良好な里山の自然環境を保っていく必要がある。湿地では異常に繁殖しているキショウブの除去や渇水時の対応など、市と協議、連携しながら進める必要があると思う。 調査活動は、ほぼ同じレベルで継続して行うことが最も重要で、そのために調査活動を担う会員などの確保が課題と言える。 保全作業や調査活動を一般市民に広く知ってもらうためにも、武西地域の自然環境をどのように活用していくか、市とともに検討していく段階に来ていると思う。	里山の保全、環境調査等を引き続き行い、動植物の保護や里山の景観を保ち、今後、市民が利用できるように検討していきたい。	
調整課(市民活動推進課)付帯意見			
本事業は、印西の豊かな自然環境の維持と再生のため、武西の里山にて、湿地の手入れやゴミ拾いなどの保全作業と動植物と水質の調査を行うものである。 活動に必要な備品類を環境保全課が提供し、草刈の効率性が向上されたことなどもあり、荒れていた里山は相当改善され、草原性の植物が繁殖できる自然環境が少しずつですが回復できたようである。 平成31年度は企画提案型協働事業(市民提案型)として2年目の実施年となりますが、環境保全課からも良い評価を得られており、いくつかの課題を適切に改善することにより、企画事業として大きな飛躍が期待されます。			



印西市企画提案型協働事業 事後評価シート(比較表)

1. 事業概要

事業名称	みんなでつくる「木下街道膝栗毛」リターンズ		
事業の実施者	実施団体名	印西ふるさと案内人協会	
	所管部署	生涯学習課	

2. 事業のプロセス評価

	設問	印西ふるさと案内人協会				印西市			
		十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
(提案書提出前) 協働事業開始前	Q1 申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1. 実施した 2. しなかった				1. 実施した 2. しなかった			
	Q2 相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	○				○			
	不十分と回答した場合はその理由を、また協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。								
(アイデア審査後、最終審査前) 協働事業開始前	Q3 事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れや提案にあたっての留意事項を参考としましたか。	1. した 2. しなかった				1. した 2. しなかった			
	Q4 お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	○				○			
	Q5 協議は対等・協力的に行えましたか。	○				○			
	Q6 共有すべき課題について確認できましたか。	○				○			
	Q7 互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	○				○			
	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	○				○			

	設問	印西ふるさと案内人協会				印西市			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1. 行った 2. 行えなかった				1. 行った 2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項(合意事項)は記録に残しましたか。	1. 残した 2. 残さなかった				1. 残した 2. 残さなかった			
	不十分と回答した場合はその理由を、また事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。								
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。	「広報いんざい」はじめ各情報誌やメディアに依頼したほか、ポスター・チラシで周知を図った。				会や市のHP、協力団体の機関誌、駅構内、各施設などで開催当日の様子や市内の名所旧跡のPRを積極的に行った。			
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	常に役割分担を確認しつつ進められた。担当課が大変協力的で大いに助けられた。				企画提案時の役割・責任分担のとおり、会は主として、協力者及び協力団体の募集、打ち合わせ会議の開催、広報活動、事業の運営等を行い、市は主として施設利用・公用車の手配、学芸員等による解説、資料監修、文化財所有者等との調整等を行い、適切な役割・責任分担ができた。			
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1. 適切 2. 適切でない				1. 適切 2. 適切でない			
	理由を記入してください。	全体としての収支バランスがうまくいったので、当会負担分もほぼ当初の予定通りだった。				概ね計画通りに執行され、適切であったと考える。			

3. 事業の成果評価(事業計画書や事業完了報告書を踏まえて)

	設問	印西ふるさと案内人協会				印西市			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。			○			○		
	実施できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	協力者を公募したが応募者なく、予定したプロジェクトチームの編成は、担当課と当会会員となった。				参加者は定員に達しなかったものの、計画を上回る協力者・協力団体を得ることができ、事業実施に至る経過についても概ね当初の計画どおり実施できた。			
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○					○		
	達成できた点(できなかった点)を具体的に記入してください。	参加者300人を募集したが、当日の参加者は170人であった。しかし、市内外・老若男女・外国人の参加も多くあり、各種交流の場となった。さらに、当初予定の協力団体は15であったがそれを10も上回る団体の協力を得られ、当日のスタッフは250人にのぼった。				参加者は定員に達しなかったものの、多くの市民・市内団体の協力を得て、事業目的は十分に達成された。			
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○				○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。					適切であった。			
	協働で事業を実施したことは、単独Q19で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○				○			
効果があった点や課題を具体的に記入してください。	何よりも事業の信頼性が増した。施設の利用や設備の使用に際しても大いに助かった。				多くの市民・市内団体の協力を得ることができたのは、会が中心となって様々な角度から多方面に働きかけた結果であり、このことが大きな要因となって事業目的が達成されたものと考えられる。ただし、事業規模に対する会の経験が伴っていなかったことは課題と思われる。				

事業の実施により、事業計画で示しQ20た地域課題の改善につながったと思いますか。	1. 思う 2. 思わない	1. 思う 2. 思わない
改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入して下さい。	「木下・六軒」の歴史ある街を歩くことで、その魅力を伝えることができたと思う。また多くの協力団体の交流が生まれたことが今後に活かせる大きな財産となった。	当市の持つ歴史・文化に関する魅力を市内外に広く発信・体験してもらうことができ、郷土への関心・愛着をより深めることができたとともに、市民団体同士の連携が図られ、今後の市民活動のより一層の高まりに大きく期待ができる事業であったと思われる。
設問	印西ふるさと案内人協会	印西市
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	平成30年という節目の年に通算30回目となる「木下街道膝栗毛」を行ったが、5年後10年後に検討したい。	単年度事業のため、来年度以降の予定はない。

調整課(市民活動推進課)付帯意見

当提案は、平成元年から20年まで20回にわたって実施された「木下街道膝栗毛」は惜しまれながら終了した「膝栗毛」をもう一度、平成30年という節目の年に、市民参加の大きな事業として復活させたい願いから始まった。

参加者は募集人数を下回ったが、多くの市民活動団体や関係者、ボランティアなどの協力がなければ、無事終了することが難しかったのではないかと認識している。

担当課は、当初の役割分担を大きく超える業務を担っており、事業規模について団体と担当課での認識に違いがあったのではないと思われる。

しかしながら、成功裡に終わったことは、団体が中心となって多方面に働きかけたことが大きな要因ではないかと認識している。結果、市の歴史・文化を市内外に広く発信・体験ができ、関心・愛着をより深めることができたと思われる。当該団体は、引き続き実施したい意向もあり、今後の市民活動の高まりに大きく期待ができる事業である。